

新型コロナウイルス感染症禍における公共交通利用促進について

愛知県 豊橋市
発表者：永井 秀之
(都市計画部都市交通課)

■背景と目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴う外出の自粛要請や心理的な不安感などにより公共交通の利用者は激減し、交通事業者の経営状況は大変厳しいものになっている。



心理的な不安感を和らげる取組みを実施し、
交通事業者を支援！



■プロジェクトの内容と効果

①公共交通が安心安全に利用できることの周知

安心して公共交通に乗るための工夫を紹介した「新しい生活様式での乗り方4カ条」の作成

【周知方法・周知場所】



《「新しい生活様式での乗り方4カ条」の作成》



《豊橋駅での動画放映》



《広報紙同配チラシによる世帯配布》



《豊橋駅バスセンターでの周知》



《ウェットティッシュの作成・配布》

【効果】

様々な媒体で周知を行うことで、普段から公共交通を利用する人にも利用しない人にも効果的な周知を行うことができた。

②公共交通を利用するきっかけ作り

周知の次の段階として、実際に公共交通を利用してもらうため、様々なイベントを実施

【取組内容】

- ・手塚治虫展と豊橋鉄道市内線1日フリー乗車券のセット割引販売の実施
- ・公共交通を利用してイベント会場に来場した人へ割引券などの特典を付与
- ・とよはしの電車やバスで行くウォーキングイベントの実施
- ・東三河リアル謎解きゲームの実施
- ・上記イベントを案内した公共交通利用促進チラシの作成・配布
- ・公共交通乗車補助券事業の実施(12月～3月実施予定)

【効果】

上記イベントによる公共交通の利用者数は延べ2,167人となり、周知だけにとどまらず、公共交通を利用してもらう理由づけを行うことができた。



《ウォーキングイベントの様子》



《公共交通乗車補助券(案)》



《パンフレット》

■結論

新型コロナウイルス感染症禍において公共交通を維持していくためには、公共交通は安心して利用できることを多くの人に知ってもらい、イベントなどによって実際に公共交通を利用するきっかけ作りをすることが重要である。今後も引き続き効果的な周知方法を模索していくとともに、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、利用促進も併せて行っていきたい。